

令和5年度 広島市立看護専門学校学校自己評価概要

広島市立看護専門学校では、平成16年度から自己評価による学校評価に取り組んできました。学則第1条の2第1項「学校は、教育水準の向上を図るとともに、前条の目的を達成するため、学校の教育活動その他の学校運営の状況について自ら評価を行い、その結果を公表するものとする」に基づき、令和5年度の結果を公表いたします。

（前条：学則第1条「広島市立看護専門学校は、学生に対し、看護師として必要な知識及び技術を修得させ、医療の普及及び向上に貢献し得る有能な人材を育成することを目的とする。」）

- 教育理念
- 1

豊かな人間性や倫理的配慮をもって、地域社会に貢献できる看護師を養成する。
- 2

専門職者として、自己教育力をもって自律できる看護師を養成する。
- 3

時代のニーズに対応し得る看護の専門的知識・技術、臨床判断能力を備えた看護の実践者を育成する。

「4：できている」「3：ややできている」「2：ややできていない」「1：できていない」から、
あてはまる点数を記入

n=29（回収率100%） 配付数29 回収数29（うち有効回答数29） 赤字：平均値3.4以上（12項目中7項目）

項目		主な内容	R5（期末）			学校としての取り組み事項
			数値域	平均	SD	
学校運営	教育理念・目的	①学校の教育理念や目的が教員や学生、保護者に周知されているか。また、実際に教員や学生の指針となっているか。 ②目標に対する評価を実施し、その結果を教職員に周知するとともに、次年度の取組につなげているか。	4	3.4	0.6	①本校の教育理念や教育目的については教職員や学生と共有できるよう廊下などに表示し、学生便覧に示し説明している。外部への周知はホームページやパンフレットを用いて表示している。入学試験面接では本校の教育理念や教育目的をもとに語られていることから、外部への周知はできていると考える。ただし、コロナ禍を経て保護者説明会の機会が減少しており、次年度からは積極的に開催予定である。 ②4月に学校経営計画について運営会議で決定し、教務取組事項に繋げて職員へ周知後、業務分担、学年分担に基づき目標設定を行い、職員全員で今年度の学校運営を行った。年度末評価を行い、3月の教員研修で報告を行った。次年度への取組に繋げていく。
	学校運営に関するマネジメント	①学校全体の情報共有、総務課と教務課の連携は適切に行われているか。 ②業務マニュアルが適切に整備され、必要に応じて適宜見直し、周知されているか。 ③管理職のリーダーシップのもと、各係長がそれぞれの部署をまとめチーム力を発揮して問題解決に当たっているか。 ④学校評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知するとともに、外部にも公表しているか。また、その結果に基づき改善を図っているか。 ⑤学生情報を適正に管理するための学生支援システムが円滑に運営されているか。	4	3.3	0.7	①運営会議では、学生に関すること、学校運営に関することを校長・副校長、教務課、総務課を含む委員で週1回情報共有し、協議・決定した。今年度は、主に臨地実習時の体調不良による欠席の取扱いについて、学則に照らし合わせて事例ごとに検討した。さらに、追試・再試の決定、実習補習・再実習等の計画を立て、学習の機会を確保するための協議に時間を要した。また、学生の怒感に関して、倫理委員会を開催し処分の決定、その後の対応についても慎重に行った。 教務課の運営については、教務連絡会議の前会議として主任会議を位置づけて月の前半に開催し、より身近な情報から問題共有や課題解決に向けた協議の場とするともに、主任の主体性の向上や連携強化、学校運営への積極的な参画を期待し会議は定着してきた。また、毎朝朝礼を行い、教員全体への情報共有の場とした。 ②昨年度より新カリキュラムの導入により、業務マニュアルも見直しを行っている。ただし整備、活用については今年度達成に至っていないため、次年度も継続して取り組む。 ③①②を通して、各業務や学年取組が行えるよう、第一教務係長・第二教務係長・専門員を中心に担当主任を配置し、運営した。学校自己評価は委員会を定期的に開催し、委員を中心に計画通りに実践した。学生に対しては学校自己評価に対するアンケートを中間・期末に実施し、結果を掲示して公開し、教員へは回収し共有した。教員評価も同様にを行った。学校全体の運営に資目できるよう、業務分担・講座別取組・学年別取組を評価後に結果を開覧した上で学校全体の評価として記載するよう動機づけ、学校運営の一員としての自覚を促した。中間評価は回収とし、期末後は、今年度の学校自己評価についてのまとめを3月の教員研修時に伝達し、次年度の学校運営計画、教務取組事項の立案に繋げていく。 ⑤学生支援システムを活用し成績管理を実施した。新カリキュラム導入による項目変更を行い、今年度もその都度新しい手順に修正した。
	教育課程	①教育課程は看護学の内容、求める学修の到達及び学生の成長について明確な考え方と根拠をもって編成しているか。 ②学習内容は、教育理念・教育目標と一貫性があり、時代の要請に応える内容となっているか。 ③単位認定の基準及び方法は、看護師に必要な学修を認めるものとして十分に根拠があり、また、妥当であるか。 ④未履修科目の原因分析を教員側と学生側で実施し、対応策を講じているか。	3	3.2	0.7	①教育計画に基づき、学習進度や内容について見直しを行い、計画した。第一看護学科は新カリキュラム導入後2年目、第二看護学科は今年度1年生より導入開始となり、どちらも計画通りに進めることができた。学生の成長や学修の到達度に関しては、導入前に協議を重ねて作成したが、現在、導入後の評価までには至っていない。 ②計画通り実施した。内容と評価については、シラバスと評価表に照らし合わせて遵守し実施した。学生の単位取得に関して検討が必要な時は、状況を十分に把握し、シラバスや便覧の成績評価要綱に則り、新旧カリキュラムに留意して事例ごとに確認した。 ③単位認定会議（進級）については3月末に開催、卒業認定会議については2月に開催した。会議時に補習や再実習などで単位認定ができなかった学生に対しては、条件をクリアできた時点で認定とした。最終、運営会議で報告した。 ④各学年で学生全員に定期面談を行い、学習困難な学生の状況を確認し、サポート計画を個別に立案し実施した。また、学生の未修得科目については、教員が学生と面談して共に対策を考え、保護者教員間でも情報共有を行い、同意のもと慎重に進めた。
教育活動	シラバス（授業計画）	①シラバスと教育課程に整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしているか。 ②スムーズな授業運営を図るため、適切に時間割を調整しているか。 ③学生の状況に応じて授業内容や指導方法を考え、工夫・改善しているか。 ④学生による授業評価を実施し、授業の改善に努めているか。	4	3.4	0.6	①シラバスによる科目目標・授業内容・テスト・評価について学生に提示するとともに授業ごとに説明を行っている。今年度も11月より今年度の授業進捗状況を参考に次年度の内容の検討を開始し、担当者全員でシラバスをまとめ、期日までに次年度のシラバスの冊子化を行った。 ②月間カリキュラムを前月10日までに調整し全体に提示した。各学年の授業計画がスムーズに遂行できるよう、学習効果を考えて学科、学年全体を視野に月間表で調整を行った。 ③授業形態は新型コロナウイルス感染症が5類分類となり、ほぼ対面での講義を実施し、直に学生の反応を確認しながら進んできた。 学年担当者は外部講師と連絡をとり、連携して授業運営にあたった。学生の授業態度について外部講師からの報告に対し、学内教員が授業に参加して状況を把握し、学生へ指導を行った。外部講師へは学生の様子を伝える等の情報共有に努めた。 ④授業と評価が終了した科目ごとに授業評価アンケートを実施した。領域ごとの評価を教員間で共有し、次年度の教育計画に反映させている。
	実習	①実習目標が達成されるよう実習環境が整っているか。 ②実習指導者と教員の役割を明確にし、互いに協力して実習指導にあたる体制があるか。 ③実習時の患者への倫理的配慮を励行しているか。 ④実習時のインシデント・アクシデントを分析し、学生指導に活かしているか。	3	3.4	0.6	①②③今年度は、ほとんどの実習施設で臨地実習を行うことができた。各実習施設との指導者会議も予定通りに開催し、実習指導者と実習施設の指導の調整や環境整備を行うことができた。今年度は学生のレディネスの周知を図るため書式を統一して作成し、臨地実習先と共有の上、各部署内での情報共有にも繋げることができた。会議以外でも担当教員と臨床側で適宜連絡をとり、その都度感染対策の確認を行った。実習目標達成のための方策について情報を共有し、希に模索しながらではあったが、連携を図りながら実施した。調整困難事例に対しては、担当係長に報告し、必要時は直接施設の会議の場を設けるなど対応を行った。 さらに昨年度より、第一看護学科1・2年生、第二看護学科1年生が新カリキュラムでの臨地実習となったが、内容や実習時間の調整など実習施設と連携をとり、円滑に実施することができた。ただし、学生の体調管理や実習に臨む姿勢など医療従事者としての自覚に乏しい行動がみられ、学生へ度重なる指導を要したが、臨地実習施設の協力を得て、実習を継続できたことに大変感謝している。 ④臨地実習が再開し、IA（レベロ0～1）が5件発生した。事実発生フローにそって臨床への報告、学校での対応を行った。実習時のIA発生時には、状況分析を行い再発防止のため今後の対応までを検討し、全体へ周知した。学生へも振り返りを行い、グループ内でも共有して安全について考える機会を設け、後に全体共有へとつなげた。教員へも朝礼時に速報を伝達している。個人情報取扱いに関しては、その都度、実習要項を用いた説明を繰り返している。
学生支援	学生支援	①学生が学修を継続できる支援体制を多角的に、かつ学生が利用しやすいように整え、実際に学生生活の支援になっているか。 ②学生の心身両面での健康管理体制が整っているか。 ③学生生活、進学、就職に関して学生の相談に十分に応じているか。 ④学生主体で自治会活動が実施できるよう計画的かつ適切な指導・支援を行っているか。 ⑤図書室は利用しやすく学生に十分活用されているか。	3	3.3	0.6	①②③学生の学習状況の把握を行い、学習不足の学生や欠席しがちな学生には教員がからアプローチを行い、早期の支援に繋げている。スクールカウンセリングはカウンセラーと昨年度の実績を基に年間計画を立て、実践した。今年度はカウンセリング（個別・グループ）を計44時間、スクールカウンセリング授業・オリエンテーションを計12時間実施した。教員研修を含め教員との連携に4時間を設けた。また、チューター制・担任制を継続し学生支援を行っている。チューターは主に精神面のフォローを行い、教員1名が学生10名程度を受け持っている。 学生アンケート結果から「スクールカウンセリングによる安心感」については安心と回答した学生は78.2%と昨年度から4.2ポイント低下した。個別カウンセリング件数が増えていることもあり、次年度は個別カウンセリングの枠を増やす等の対応を行っている。しかし、「教員からの学習サポート」は96.5%と4.6ポイント上昇し、「教員の精神的サポート」「教員の相談しやすさ」「教員：分かりやすい実習指導」の3項目とも4.5ポイントの上昇し、教員のサポート力の向上が伺える。 健康管理については担当者が責任をもって全学年に必要な定期健康診断を予定通りに実施し、校医へ報告・相談を行った。奨学金担当者も数名で連携を図り、情報共有を基に学生に希望を募り、申請のための支援を行った。 ④自治会活動は教員担当者がサポートし、スポーツ交流大会をWebで主催開催し、応援合戦では優勝することができた。他の運営においては、金銭管理もあり、その都度教員が関わり、自治体運営の補佐を行った。 ⑤図書利用に関しては、担当者を1名配置した。教員経験もあることから、学生の状況を見ながら看護過程の資料ファイルの活用や文献検索の支援を行ったり、学習面や継続方法についての質問や相談に対応した。図書の購入は予算内で計画通りに実施した。
	教育技術の向上	①教員が計画的に研修に参加できるよう支援しているか。 ②学校の抱えている課題を踏まえた職場内研修を行っているか。 ③研修や学会等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みがあるか。 ④授業を他の教員が参観、講評できる機会があるか。	4	3.4	0.6	①②③教員の研修参加については、今年度予算が厳しい中、Web研修を含めて12名（約4割）が学会・研修に参加することができた。参加者は復命書と研修参加資料を回収し、他の教員への研修内容の共有を図っている。ただし、教員より、学会参加後の伝達講習がもっと行われれば知見が広がり良いと思うとの意見が複数得られた。研究への取組として、教育に根差した専門性に基づき、看護の質向上を図るため、「『絵本の読み聞かせ演習』における教授方法の効果～スマートフォンを用いた動画撮影機能の活用～」の題材で小児看護概論を担当する教員による研究を行い、日本看護学教育学会第33回学術集会で研究発表を行った。職場内研修は、夏季と春季の2回開催し、業務別・講座別の活動状況の把握や授業研究発表、専任教員研修受講後の伝達講習、さらに倫理・人権研修などを実施した。さらに倫理カンファレンスを8回/年開催し、教務課内や学生の問題や課題を検討したり、意識の統一化を図ったり、意見交換を行った。 ④今年度も新任者の公開授業を教育委員会の方を招き、成人領域の担当者が実施した。授業参観後に時間を設け、振り返りや講評を得たり、研修の機会としている。上記の内容から、教員間の伝達講習や意見交換の機会を持つ機会を増やしていきたい。
教職員の育成	看護教員の育成・確保	①人材育成・人事交流推進に向けて広島市立病院機構と円滑な連携体制を確保しているか。 ②看護教員が働きやすい職場環境を整えているか。	3	3.2	0.7	①今年度も1対1で人事交流を実施し、広島市立病院機構からの異動者1名については、今年度から広島県での専任教員養成講習会が中止となり、京都府で受講し、1月より看護師から専任教員として勤務している。次年度も同様に人事交流を行う予定である。 ②今年度は、上記研修期間中の欠員補充として看護師1名を会計年度職員として採用し、臨地実習指導等を実践し、人員は充足した。教務事務の配置について、教員業務に専念するため要求を行っていたが令和5年度まで配置なし。令和6年度より会計年度任用職員1名の配置を確保できた。初めての配置となり、次年度は業務内容や量など調整しながら、教員の負担軽減に繋げていきたい。 ③年度取得に関しては、季節ごとに広報し、年度取得の少ない教員へは直接声をかけた。2月末には教員全員が5日以上休休を取得できた。 ④教員同士の連携を図り、モチベーションのUPを図るため、教員のFDの運用強化を図った。教員FDの見直しを行い、広島県看護師等専任教員の経験段階に応じた成長指針と本校のFDを照らし合わせ、活用しやすいものに修正中である。個々の専任教員の教育実践能力の向上に向けての可視化と授業計画の改善に繋げて活用していく予定である。また、面接を通して、教員間のコミュニケーションの機会とし、仲間つくりを実践し、心理的安全性に繋げていきたい。
	入学者の確保	①より多くの応募者を確保することに努めているか。 ②入学者の状況について、入学者選抜方法の妥当性から分析し、検証しているか。	4	3.7	0.5	①感染対策を行いながら参加者や内容を縮小した形でオープンスクールを2回（1回目金曜日、2回目土曜日）開催した。校内案内は両回実施した。在校生との交流については1回目は動画での参加とし、2回目は対面での相談コーナーを設けて学校生活を伝えることができた。また、学外での進路相談会には可能な限り参加し、21件参加、参加者327名と毎年30～40名ずつ上回り、相談会での国試対策や実習施設の充実など、当校の選択理由を聞くことができ、参加者の入学に繋がっている。 また、学校のパンフレットや募集要項を希望者・実習先・市役所の市民広場などに配布し、YouTube配信を通じて入学者の確保を行った。 ②入試委員会を6回/年実施した。過去の出願者や入学者の統計結果、社会動向等の情報を参考に、受験生の概要や人数を予測したり、面接方法に関してより受験生の個性や考えなど意図が確認できる方法を検討した。
入学・就業・就職	国家試験合格률・就職率100%	①国家試験対策に個々の学生に合った指導・援助を行うなど、教職員が一丸となって取り組んでいるか。 ②卒業生の広島市内就職率を高めるよう努めているか。 ③卒業生の到達状況、就職・進学状況を分析し、学校運営に活かしているか。	3	3.2	0.7	①国家試験対策委員会を中心に3年間を通した国家試験対策に取り組み、令和5年度は全員合格（100%）を達成することができた。模試の結果を踏まえて国試対策NEWSを発行したり、国家試験直前計画を立案し、教員・学生用の配布資料を作成してそれぞれ配布し、教員全員の協力を得て国試対策を実施した。内容としては、模試で下位を示した学生を支援し、さらにTemsを活用して全員参加もできるよう直前対策を計画し実施した。教員評価では委員会と各学年との連携がやや図れていないとの意見がみられた。ただし、学年毎の取組においては評価は良かった。また学生の「国家試験合格への取り組みは効果的」の評価も92.6%と昨年度より0.7ポイント上昇した。 ②2年生を対象とした進路ガイダンスを2回（1回目は広島市内の病院10施設からの情報提供、2回目は卒業生からの体験談）開催した。学生の満足度も高く、学生自身就職に対する意識化へ繋がることができた。 ③年度末に卒業生の進路を分析し、次年度の学校経営計画に繋げている。また、臨床指導者会議等の機会を利用し、情報共有を行っている。
	地域の連携・社会貢献	学校の情報発信 ①学校の情報について、ホームページをはじめ多様な手段で積極的に広報活動を行っているか。 看護教員の社会貢献 ①社会との連携において、地域のニーズを把握し、看護教育活動を通じた地域社会への貢献を組織的にしているか。	4	3.7	0.5	上記の入学者の確保に記載した内容と同様に、今年度、オープンスクールを2回（1回目金曜日、2回目土曜日）開催した。平日開催、週末開催を実施し、社会人や第二看護学科への入学希望者の来校も促すことができた。また、2回目は保護者の参加も可能とした。進路相談会ではiPadを用いてパワーポイントや写真などを使用しイメージしやすいように説明を行い、質問に対応した。また、「学校便り」を年2回発行したり、ホームページを活用して行事やイベントの内容を掲載し、広報活動の一つとして継続している。また、広島市のYouTubeで学校情報発信を行ったり、RCC TVの元就で広報活動を行った。教員内でもこの活動には積極的に実施していると高評価であった。
平均				3.4	0.6	

外部関係者のご意見

<学校運営目標に関して>

- 理念・目的については、教員平均点は3.4で年々上昇している。学校運営のマネジメントでは、「看護職に魅力を感じている」が2年連続して低下しているため、承認を心がけやすいに繋げることが望まれる
- 「看護職に魅力を感じる」の項目が2年連続して低下しているのは、気になります。重要課題であり、対策が急務と考えます。関連団体として情報共有できることはしていきましょう。
- 教育理念・目的をもって、学校全体の情報共有、連携、業務マニュアルの周知、管理職のリーダーシップ、学校評価結果の職員への周知や公表、学生支援システムの活用など、具体的に指標を提示されているのでわかりやすい
- 教育理念の実現に向け、教育課程に編成及び実施、教職員の教育技術の向上や育成・確保、地域との連携多方面にわたる評価内容を定め、具体的な取り組み内容と課題を検証するなど、組織的な学校運営が行われている。
- 今後も社会の変化や教育の動向に注視しつつ、本市の看護教育の更なる充実に向け取り組んでほしい。
- 会議や連絡会で情報を共有することや、関連部署との連携を強化しながら学校運営に取り組まれている。

<活動内容に関して>

- 旧カリキュラムと新カリキュラムの混在の中で、計画的に実施ができたことはよかった。また、感染状況が改善し、対面での授業ができたことで、理解がしやすかったと考えられる。実習もほぼ臨地で行うことができ、患者と直接コミュニケーションを取る機会ができたことは効果的であった。
- 課題が整理されていますので今後も引き続き期待します。
- 新カリキュラムへの移行も問題なく実施でき評価できると思います。今年度は、教員の方に当院の研修講師を務めていただき好評で、大変ありがたかったです。活動内容に関しては、問題ありません。
- 新カリキュラムが混在する中でシラバスを活用しながら混乱なく進めることができている。今年度はほとんどが臨地実習を行うことができ、臨床現場での看護技術の習得に大きく前進できたのではないかと期待している。

<自己評価結果（数値評価）に関して>

- 教員の指導、サポートがかなり高くなっている。教育の方々の努力の成果が伺える。また学外講師の授業が理解しやすいが-2.2ポイントとかなり悪いので、できるだけ分かり易い表現での授業を行う必要がある。
- 更にスクールカウンセラー安心感も-4.2と低いので、メンタルサポートの改善が望まれる。
- どのような改善をされたのか可視化できるように提示されると意見が出しやすいですが、
- 自己評価結果については、年度ごとの変化は仕方ないと思います。すべて3点以上であり具体的な取り組みと1年間の課題を具体的に可視化されていますので、分かり易いです。

<その他 意見・要望等>

- 携帯電話などIT機器を使用しているコミュニケーションが当たり前となり、実際の患者・スタッフとのコミュニケーションで難しさを感じられることが多いと思われる。しかし、看護実践において会話のコミュニケーションは欠かせないので、自発的に発信する力をつけほしい。そして看護の魅力を感じる授業・臨地実習が行えるように認定看護師、実習指導者と共に支援していきたい。
- 昨年も意見を下さっていたかきまして、外部の有識者の意見を直接聞き、協議できる場があればよいと思います。（市民病院や貴学だけでなく）設置されたいと思います。
- 規律や挨拶などの社会人としてのマナーを学生のうちから指導していただけるとありがたい。